

皮膚疾患を有する患者様へ 医療情報

歯科と連携する皮膚疾患もあります。

最近、歯科で使用した金属による皮膚疾患（歯科金属アレルギー、せつしよくひ ふえん接触皮膚炎など）で来院される患者様も増えています。

こういった疾患に対しては、皮膚科やアレルギー内科などの先生たちとしっかりと連携を取り合って治療していくことが大切です。

皮膚科での病名も「金属アレルギー」「接触皮膚炎」しょうせきのうほうしょう「掌蹠膿疱症」など、歯科との関連が考えられる病名もたくさんあります。

皮膚科より歯科受診をすすめられる場合もあります。

「皮膚科なのに、歯科？」と思われる患者様もみえますが、実は歯科疾患が関わっていることもあります。

まずは、かかりつけの皮膚科での正確な診断、原因の検索（詳細な問診・皮膚生検・パッチテスト・血液検査・白癬菌検査など）が必要です。

パッチテストは、貼布日、48時間判定、72時間判定、1週間後判定が必要不可欠です。

また掌蹠膿疱症のように「歯の根っこの炎症・歯周疾患」、また扁桃腺・副鼻腔へんとうの慢性的な炎症が関わっている場合もあり、耳鼻科受診が必要になる場合があります。

こういった難治性の皮膚疾患があり、皮膚科治療だけで改善しない場合、歯科治療・耳鼻科治療なども皮膚科の先生に相談してみてください。

また金属アレルギー等の場合、置き換える歯科材料によっては保険で可能な場合・あるいは保険では無理な場合もありますので、歯科の先生とよくご相談されることもおすすめいたします。

ただ、多くは保険で可能な場合もあります。

皮膚科

● 問診時に虫歯や歯周病などの有無を尋ねる
● 金属アレルギーがないか検査する

そういえば…

虫歯や歯周病を放置していませんか？

最初、歯科を受診された場合は皮膚科に紹介します。

虫歯や金属アレルギーが原因として疑われる場合…

歯科

● 皮膚科が歯科を紹介し、問診と検査結果を伝える

歯科

皮膚科

● 虫歯、歯肉炎、歯周炎などを治療
● 義歯や詰め物をアレルギー反応のない素材に取り換える

● 並行して皮膚科での診察、治療を続ける

だいぶよくなりましたね



写真提供：おしむら歯科

執筆者 押村 進（おしむら歯科）